

2015 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	生存学研究センター
研究センター長名	先端総合学術研究科・教授 立岩 真也

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなないでできるだけわかりやすく記述してください。

成果の内容：2015 年度は、研究センター5 年計画に則り、次の2 点について重点的な活動をおこなった。(1)「生存学」創成の基盤となるテキストとして生存学研究センター編『生存学の企て』（生活書院）を刊行した。(2) 若手研究者へのプロジェクト研究支援・国際研究支援に加えた新たな研究支援活動として「生存学奨励賞」を設けた。上記2 点に関する重点的な活動に加えて、定期刊行物である雑誌『生存学』第9 号（生活書院発行）、多言語ウェブジャーナル Ars Vivendi Journal No.8、『生存学研究センター報告』第24 号、25 号、26 号を刊行、『大震災の生存学』を刊行した。また、日本語・英語・韓国語の3 つの言語を中心として facebook、センターHP、arsvi.com、twitter、メールマガジン（日本語12 号、英語12 号、韓国語14 号）とともに成果発信につとめた。それぞれの研究は、本センターが掲げる4 つの課題群と連関して推進した。

	国際研究の推進	国内シンポジウム等の開催	刊行物・DB 構築
I.生存の現代史	障害学国際セミナー2015（於：北京）、研究会「精神障害者の意思決定支援」（オランダ）、研究会「人間（性）の境界（限界・条件・拡張性）」（スペイン）	研究会「マイノリティの戦後」（共催、2 回）、精神分析と倫理研究会「学校・自閉・精神分析」、研究会「マイノリティの戦後」「在日コリアン教育運動の現代史」他	早川・立岩・西沢『わらじ医者の来た道』（青土社）、立岩真也『精神病院体制の終わり』（青土社）、ウェブサイト arsvi.com の充実
II.生存のエスノグラフィ	ボリス・シリュルニク氏講演会・シンポジウム「自分を救え、命があなたを呼んでいる」（フランス）、講演会「アンチエイジングを問う」（アメリカ）	ボリス・シリュルニク招聘ブレ企画（3 回）、アフリカセミナー（3 回）、講演会「ナラティブ・アプローチからみた大学生支援システムの構築と運営」他	（2016 年度にセンター報告を刊行予定）
III.生存をめぐる制度・政策	ワークショップ「再帰的なグローバル社会における自己・身体・障がい」（オーストラリア）	連続セミナー「障害／社会」（2 回）、WS「マイノリティをめぐる思想／政治」、上映・研究会「ヘイトスピーチに抗する」、上映・講演会「聞こえない／聞こえにくい人にとっての大学と情報保障」他	天田・渡辺編『大震災の生存学』（青弓社）、『抵抗としてのフェミニズム』（センター報告24 号）、『生存をめぐる規範と秩序』（センター報告26 号）
IV.生存をめぐる科学・技術	研究会「出生前診断における選択と合意」（オーストラリア）、シンポジウム「デジタル時代のアクセシビリティ」（アメリカ、R-GIRO 共催）	企画展示「放射能が降ってくる」+講演会「核時代を生きた科学者 西脇安」、公開研究会「家族計画国際協力と創られる「アジア」、研究会「出産をめぐる習俗と近代化」他	『生殖と医療をめぐる現代史研究と生命倫理』（センター報告25 号）、『戦後日本における障害者への強制不妊手術』（報告書）

意義と重要性：(1) プロジェクト研究・国際研究・奨励賞といった研究支援に加え、公開研究会・合評会・シンポジウムの開催、刊行物やウェブページを通じた成果発信に学内外の若手研究者が参画し、若手研究者育成をおこなう教育研究拠点の基盤形成に取り組むことができた。(2) 国際連携について、韓国に加えて中国の障害当事者団体との連携を強化し、欧米圏（フランス、スペイン、オランダ、アメリカ、オーストラリア等）から研究者を招聘した。国内研究者・実践者を招聘したシンポジウム・セミナー等を開催し、学内・学外の専門家・研究者とのさらなる関係構築を果たすことができた。(3) 南山大学等国内の他大学研究機関との連携に加え、東京都渋谷「超福祉展 2015」での展示、平和ミュージアムとの連携企画展示「放射能が降ってくる」、障害学生支援室・京都市および京都府教育委員会後援の上映・講演会等を開催した。これらの成果によって、企業・自治体・国際機関との連携も促進され、マスメディアの取材（例：『京都新聞』7 月19 日付「ヘイトスピーチ被害者の傷深く映画通じ考える催し」、『朝日新聞』9 月25 日付「核の時代を見つめ直す」）もあるなど、本研究センターの研究理念や実践的な取り組み、本学の展開する研究活動の先進性に沿った社会貢献をおこなうことができた。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2016年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
センター長	立岩 真也	先端総合学術研究科	教授	
運営委員	井上 彰	先端総合学術研究科	准教授	
	上野 千鶴子	先端総合学術研究科	教授	
	大谷 いづみ	産業社会学部	教授	
	小川 さやか	先端総合学術研究科	准教授	
	栗原 彬	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	小泉 義之	先端総合学術研究科	教授	
	齋藤 龍一郎	衣笠総合研究機構	教授	
	サトウタツヤ	文学部	教授	
	千葉 雅也	先端総合学術研究科	准教授	
	長瀬 修	衣笠総合研究機構	教授	
	中村 正	産業社会学部	教授	
	西 成彦	先端総合学術研究科	教授	
	林 達雄	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	Paul Dumouchel	先端総合学術研究科	教授	
	松原 洋子	先端総合学術研究科	教授	
	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授	
	村上 潔	衣笠総合研究機構	准教授	
	望月 昭	文学部	教授	
	望月 茂徳	映像学部	准教授	
	やまだようこ	衣笠総合研究機構	教授	
渡辺 克典	衣笠総合研究機構	准教授		
渡辺 公三	先端総合学術研究科	教授		
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	高 誠晩	衣笠総合研究機構 (生存学)	専門研究員
		中倉 智徳	衣笠総合研究機構 (生存学)	専門研究員
		片岡 稔	衣笠総合研究機構 (生存学)	研究員
		櫻井 悟史	衣笠総合研究機構	専門研究員
		篠木 涼	衣笠総合研究機構	専門研究員
		藤原 信行	衣笠総合研究機構	専門研究員
		吉田 一史美	衣笠総合研究機構	専門研究員
		由井 秀樹	衣笠総合研究機構	専門研究員
		福田 茉莉	衣笠総合研究機構	専門研究員
		孫 美幸	衣笠総合研究機構	専門研究員
		木戸 彩恵	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員

	植村 要	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
博士後期課程院生・一貫制博士課程 3 回生以上在籍院生	青木 秀光	先端総合学術研究科	院生
	神崎真実	文学研究科	院生
	田 一葦	文学研究科	院生
	齋藤 絢子	文学研究科	院生
	荒木 健哉	先端総合学術研究科	院生
	貞岡 美伸	先端総合学術研究科	院生
	坂井 めぐみ	先端総合学術研究科	院生
	笹谷 絵里	先端総合学術研究科	院生
	瀧川 由美子	先端総合学術研究科	院生
	桐原 尚之	先端総合学術研究科	院生
	白田 幸治	先端総合学術研究科	院生
	三輪 佳子	先端総合学術研究科	院生
	栄 セツコ	先端総合学術研究科	院生
	姜 旻廷	先端総合学術研究科	院生
	末安 民夫	先端総合学術研究科	院生
	西田 美紀	先端総合学術研究科	院生
	酒井 美和	先端総合学術研究科	院生
	大野 藍梨	先端総合学術研究科	院生
	岩田 京子	先端総合学術研究科	院生
	永田 美江子	先端総合学術研究科	院生
	梁 説	先端総合学術研究科	院生
	児嶋 きよみ	先端総合学術研究科	院生
	北見 由美	先端総合学術研究科	院生
	柏尾 有祐	先端総合学術研究科	院生
安 孝淑	先端総合学術研究科	院生	
谷村 ひとみ	先端総合学術研究科	院生	
中村 亮太	先端総合学術研究科	院生	
中西 京子	先端総合学術研究科	院生	
山口 真紀	先端総合学術研究科	院生	
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	八木 達祐	先端総合学術研究科	院生
	小田 英里	先端総合学術研究科	院生
	寺前 晏治	先端総合学術研究科	院生
	伊東 香純	先端総合学術研究科	院生
	高木 美歩	先端総合学術研究科	院生
	土屋 史人	先端総合学術研究科	院生
	安田 裕子	文学部	准教授

	大谷 通高	立命館グローバル・イノベーション研究機構	客員研究員
	金 友子	言語教育センター	嘱託講師
	高橋 慎一	文学部	非常勤講師
	堀江 有里	国際関係学部	非常勤講師
	小門 穂	経営学部	非常勤講師
	北村 健太郎	先端総合学術研究科	非常勤講師
	村上 慎司	先端総合学術研究科	非常勤講師
	横田 陽子	先端総合学術研究科	非常勤講師
客員協力研究員	有馬 斉	横浜市立大学国際総合科学部	准教授
	青木 慎太郎	フリーランス講師	自営
	太田 啓子	一般社団法人無限	非常勤職員
	高田 一樹	南山大学大学院ビジネス研究科	准教授
	打浪 文子	淑徳短期大学子ども学科	特任講師
	山本 崇記	静岡大学人文社会科学部	准教授
	加藤 有希子	埼玉大学基盤教育研究センター	准教授
	鄭 喜慶	韓国光州大学社会福祉学部	助教授
	新山 智基	神戸国際大学ブルーリ潰瘍問題支援プロジェクト	幹事
	能勢 桂介		
	牧 昌子	京都府国民健康保険審査会	委員
	浦田 悠	大阪大学教育学習支援センター	特任講師
	大野 光明	大阪大学グローバルコラボレーションセンター	特任助教
	河口 尚子	東京福祉大学	非常勤講師
	川端 美季	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	小林 勇人	日本福祉大学	准教授
	定藤 邦子	定藤記念福祉研究会	世話人
	渋谷 光美	羽衣国際大学人間生活学部	准教授
	利光 恵子	としまつ薬局	自営
	浜田 明範	国立民族学博物館先端人類科学研究部	機関研究員
	堀田 義太郎	東京理科大学理工学部	講師
	安田 真之	京都産業大学ボランティアセンター	特定職員
	安原 荘一	全国「精神病」者集団	メンバー
	小西 真理子	日本学術振興会	特別研究員 (PD)
	櫻井 浩子	大阪大学大学院情報科学研究科	特任研究員

	青木 千帆子	内閣府本府	上席政策調査員
	箱田 徹	大阪市立大学都市研究プラザ	特任助教
	一宮 茂子		
	萩原 三義	相生鍼灸	自営
	山本 由美子	東海学院大学人間関係学部	専任教員
	安部 彰	大阪市立大学等	非常勤講師
	ワフユディ 理沙	東大阪大学短期大学部	専任講師
	川口 有美子	有限会社ケアサポートモモ	代表取締役
	有吉 玲子	松島医院	看護師長
	田中 慶子	広島修道大学人文学部	助教
	長谷川 唯	日本学術振興会	特別研究員 (PD)
	玉井 隆	特定非営利活動法人アフリカ日本協議会	理事
	金 政玉	明石市福祉部福祉総務課	課長
	番匠 健一		
	田邊 健太郎	先端総合学術研究科	研究指導助手
	橋口 昌治	先端総合学術研究科	非常勤講師
	川田 薫	株式会社サーベイリサーチセンター マーケティング課	職員
	天田 城介	中央大学文学部	教授
	郭 貞蘭		
	小辻 寿規	京都橘大学現代ビジネス学部	助教
	土橋 圭子	愛知県立春日台特別支援学校	教諭
	永田 貴聖	国立民族学博物館	機関研究員
	山田 裕一	障害学生パートナーシップネットワーク	職員
	田中 壮泰	日本学術振興会	特別研究員 (PD)
	藤原 良太	社会福祉法人 至誠学舎立川	児童指導員
	蒲生 諒太	京都大学大学院教育学研究科博士後期課程	院生
	吉田 幸恵	東京大学医科学研究所	特任研究員
	角崎 洋平	日本学術振興会	特別研究員(PD)
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	池田 直子	ヨーク大学大学院	博士後期課程
	佐々木 薫	同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科	博士前期課程
	中川 志保子	ヨーク大学大学院	博士後期課程
研究所・センター構成員 計 137 名 (うち学内の若手研究者 計 42 名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2016年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	立岩真也	『与えられる生死：1960年代—『しののめ』安楽死特集／あざらしっ子／重度心身障害児／「拝啓池田総理大学殿」他』	編著	2015年5月	Kyoto Books		
2	立岩真也	『セクシュアリティをこぼにする 上野千鶴子対談集』「ケアの値段はなぜ安いか」(対談)	共著	2015年5月	青土社	上野千鶴子	103-153
3	立岩真也	『良い死 コリア語版』 『『良い死』コリア語版・序文』	単著	2015年5月	青年出版		8-14
4	立岩真也	『増補新装版 障害者殺しの思想』「再刊にあたって 解説」	その他	2015年6月	現代書館	横田弘	223-249
5	立岩真也	『わらじ医者のかたき道—民主的医療現代史』	共著	2015年10月	青土社	早川 一光・西沢 いづみ	59-193,227-230
6	立岩真也	『精神病院体制の終わり—認知症の時代に』	単著	2015年11月	青土社		
7	立岩真也	ひとつの精神史5『万博と沖縄返還—一九七〇前後』「横塚晃一—障害者は主張する」	分担執筆	2015年11月	岩波書店	吉見俊哉編	257-284
8	小川さやか	「第6章 脳内コックピット探訪記—獨創性はどこから生まれてくるのか？」	共著	2015年4月	椿昇『飛び立つスキマの設計学』産学社	椿昇	120-129
9	小川さやか	書評：三尾裕子・床呂郁哉編『グローバルゼーションズ』	単著	2015年4月	『コンタクト・ゾーン』(京都大学人文科学研究所)(6巻)		(オンラインジャーナル)
10	小川さやか	Living for Today の人類学 第5回「ひとりでも家族でもなくみんなが生計単位」	単著	2015年4月	小説宝石(5巻)		398-405
11	小川さやか	Living for Today の人類学 第6回「コピー商品で何か問題ある？」	単著	2015年5月	小説宝石(6巻)		136-143
12	小川さやか	Living for Today の人類学 第7回「中国系商人とアフリカ系商人、異なる二つの偽物商法」	単著	2015年6月	小説宝石(7巻)		462-469
13	小川さやか	書評：週刊読書人「2015年上半期の収穫」	単著	2015年7月	週刊読書人		
14	小川さやか	Living for Today の人類学 第8回「中国のパクリ文化、その経済戦略」	単著	2015年7月	小説宝石(8巻)		69-75
15	小川さやか	タンザニア人の生活に中国製スマホ・ケータイが浸透したわけ他3篇	単著	2015年7月	Wedge Infinity (Online)		
16	小川さやか	Living for Today の人類学 第9回「契約ではなく信頼で動く経済」	単著	2015年8月	小説宝石(9巻)		100-107
17	小川さやか	Living for Today の人類学 第10回「ケータイ文化で変わる「貸す」「借りる」の人間関係」	単著	2015年9月	小説宝石(10巻)		100-107

18	小川さやか	Living for Today の人類学 第 11 回「借りの連鎖で形 成される海賊的な社会シ ステム」	単著	2015 年 10 月	小説宝石(11 卷)		100-107
19	小川さやか	特集本の森への道案内「ア ナザーワールドを構想し、 いまこの世界に戯れる ために」	単著	2015 年 10 月	アジ研ワールドトレンド (10 卷)		14-15
20	小川さやか	Living for Today 第 12 回 「不確実なものが排除さ れた世界で私たちは」	単著	2015 年 11 月	小説宝石(12 卷)		348-355
21	小川さやか	「第 2 章 仕事は仕事—東 アフリカ諸国におけるイ ンフォーマル経済のダイ ナミズム」	分担執筆	2016 年 3 月	『仕事的人类学』世界思 想社	中谷文美・宇田川妙 子編	177-203
22	小川さやか	「第 7 章 路上空間から 情報コミュニケーション 空間をめぐるコンフリク トへ」	分担執筆	2016 年 3 月	『開発と共生を求めて— アフリカにおける資源、 市場、国家と人々』	高橋基樹編	233-273
23	渡辺克典	触発するゴフマン—やり とりの秩序の社会学	共編著	2015 年 5 月	新曜社	中河伸俊	i-viii,26-45
24	渡辺克典	大震災の生存学	共編著	2015 年 11 月	青弓社	天田城介	11-20
25	渡辺克典	インクルーシブ社会研究 11 生存をめぐる制度・政 策 連続セミナー「障害/ 社会」2	編著	2016 年 3 月	立命館大学人間科学研究 所		1-2,132-133
26	渡辺克典	生存学の企て—障老病異 と共に暮らす世界へ	共著	2016 年 3 月	生活書院	立命館大学生存学研 究センター編	113-141
27	井上彰	「ロールズ『正義論』にお ける契約論的プロジェク ト—その批判的再検討と 今日的意義をめぐって—」 『社会科学における善と 正義』	単著	2015 年 5 月	東京大学出版会	大瀧雅之・宇野重規・ 加藤晋編	49-75
28	井上彰	「運の平等と個人の責任」 『正義』	単著	2016 年 3 月	ミネルヴァ書房	宮本太郎・橋木俊詔 監修、後藤玲子編	
29	上野千鶴子	セクシュアリティをこと ばにする	共著	2015 年 5 月	青土社	信田さよ子、熊谷晋 一郎、宮地尚子、木 村朗子、北原みのり、 牟田和恵、川上未映 子	
30	上野千鶴子	思想をかたちにする	共著	2015 年 5 月	青土社	小熊英二、北田暁大、 萱野稔人、三浦佑之、 岩崎稔、成田龍一、 鈴木敏夫	
31	上野千鶴子	日本の大問題「10 年後」 を考える 「本と新聞の大 学」講義録	共著	2015 年 7 月	集英社	一色清、姜尚中、佐 藤優、上昌広、堤未 果、宮台真司、大澤 真幸	217-256
32	サトウタツヤ	Body, Mind, and Movement: Some Proposals for Constructing a Socially Inclusive Psychology Based on Developmental and Cultural Principles.	共著	2015 年 4 月	Information Publishing Age	Kasuga,H., Kanzaki,M.,& Wagoner,B.	265-276
33	サトウタツヤ	心理学の名著 30	単著	2015 年 10 月	ちくま書房		286
34	サトウタツヤ	Psychology as the Science of Human Being - The Yokohama Manifesto	共編著	2015 年 10 月	Springer	Valsiner, J., Marsico, G., Chaudhary, N., Dazzani, V.	375

35	千葉雅也	岩波講座 現代 第七巻(身体と親密圏の変容)	分担執筆	2015年12月	岩波書店	大澤真幸編	107-129
36	千葉雅也	有限性の後で—偶然性の必然性についての試論	共訳	2016年1月	人文書院	カンタン・メイヤスー著, 千葉 雅也, 大橋 完太郎, 星野 太訳	
37	長瀬 修	世界を変える知的障害者 ロバートマーティンの軌跡	監修	2016年2月	現代書館	古畑正孝(翻訳)	
38	中村 正	関係性の社会病理	共著	2016年3月	学文社	高原正興、樋口くみ子、竹川郁雄、岡邊健、三浦恵子、魁生由美子、中村正、梅田直美、井出裕久、田島博実、妻木進吾、高梨薫、矢島正見	104-126
39	西 成彦	東欧の想像力	共編著	2016年1月	松籟社	奥彩子、沼野充義ほか	247-256, 302-303
40	DUMOUCHEL Paul G.	Le Substitut essai sur la robotique sociale	共著	2015年9月	Paris: Seuil	L. Damiano	
41	DUMOUCHEL Paul G.	Social Bonds as Freedom	共編著	2015年	New York: Berghahn Books	P. Dumouchel & R. Gotoh (eds.)	
42	DUMOUCHEL Paul G.	The Barren Sacrifice an Essay on Political Violence	単著	2015年	Michigan State University Press	P. Dumouchel	
43	DUMOUCHEL Paul G.	Vivre avec les robots essai sur l'empathie artificielle	共著	2016年1月	Paris: Seuil	P. Dumouchel & L. Damiano	
44	松原洋子	「優生学」(翻訳)『スクリプナー思想史大事典』第9巻	単訳	2016年1月	丸善出版	野家啓一(翻訳編集委員長)	3391-3397
45	望月茂徳	弱さ(弱い身体)からの人間/メディア/ロボット考 特集解説	共著	2016年3月	生存学,生活書院(9巻)		228-232
46	やまだようこ	新・発達心理学ハンドブック(分担執筆)	分担執筆	2015年	福村出版	田島信元・岩立志津夫・長崎勤編	
47	やまだようこ	認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎(編著)	編著	2015年	金子書房	日本心理学会編・川島大輔共著	224-233
48	やまだようこ	ビジュアル・ナラティブとしてのマンガ/小説/映画の視点から(ことばを超えて)	分担執筆	2015年	ratik(電子図書)	家島明彦編	52-60
49	やまだようこ	日本人と日系人の物語—会話分析・ナラティブ・語られた歴史	共編著	2016年2月	世織書房	山崎敬一、やまだようこ、山崎晶子、池田佳子、小林亜子編	147-157
50	高 誠晩	在日済州人の生活史2: 故郷の家族、北の家族(韓国語)	共編著	2015年12月	ソウル; 図書出版ソニン	在日生活史を記録する会	
51	高 誠晩	Routledge Handbook of Memory and Reconciliation in East Asia	共著	2015年	London: Routledge	Mikyong Kim	287-303
52	中倉智徳	『生存学研究センター報告 26 生存をめぐる規範と秩序』	共編著	2016年3月	立命館大学生存学研究センター	藤原信行・中倉智徳編	
53	櫻井悟史	(再録)「第3章 生存をめぐる制度・政策 3 生/死と政策 櫻井悟史『死刑執行人の日本史—歴史社会学からの接近』」	単著	2016年3月	生活書院、『生存学の企て』	立命館大学生存学研究センター	132-141
54	吉田一史美	『生殖と医療をめぐる生命倫理と現代史研究(生存学研究センター報告 2	共著	2016年3月	立命館大学生存学研究センター	吉田一史美・由井秀樹編	5-7,78-94

		5)』						
55	神崎真実	Body, Mind, and Movement: Some Proposals for Constructing a Socially Inclusive Psychology Based on Developmental and Cultural Principles	共著	2015年4月	Information Age Publishing. Integrating Experiences: Body and Mind Moving Between Contexts.	Wagoner B., Chaudhary, N. & Hviid, P.(Eds)・Sato, T., Kasuga, H., Kanzaki, M., & Wagoner, B		265-278
56	齋藤絢子	学習支援の事例から学ぶ	単著	2016年2月	全国少年警察ボランティア協会、『少年警察学生ボランティアの活動事例』, 4巻	牧野 カツコ, 小西康弘, 野口 京子, 田中 法昌, 山田 新作		58-61
57	桐原尚之	「精神障害者の意思決定支援」	共著	2016年2月	立命館大学生存学研究センター『精神障害者の意思決定支	「精神保健・医療と社会」研究会		76-106
58	安孝淑	「【書評】われらは差別に賛成します—怪物になった20代の自画像」	単著	2016年3月	『生存学研究センター報告 第26号 生存をめぐる規範と秩序』	藤原信行・中倉智徳編		219~227
59	寺前晏治	代理決定パラダイムと科学神話	共著	2016年2月	立命館大学生存学研究センター『精神障害者の意思決定支援』	「精神保健・医療と社会」研究会		108-120
60	寺前晏治	個人とはいかなる存在なのか—現代における精神障害者の諸状況	共著	2016年2月	立命館大学生存学研究センター『精神障害者の意思決定支援』	「精神保健・医療と社会」研究会		122-134
61	堀江有里	『レズビアン・アイデンティティーズ』	単著	2015年7月	洛北出版			全363頁
62	堀江有里	『〈抵抗〉としてのフェミニズム』(生存学研究センター報告・24号)	共著	2016年3月	立命館大学生存学研究センター	堀江有里・山口真紀・大谷通高 編		124-152
63	小門穂	フランスにおける生殖医療—精子・卵子提供と代理出産に関する動向	単著	2016年3月	『平成27年度厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業 諸外国の生殖補助医療における法規制の時代的変遷に関する研究』	日比野由利 (編著)		56-68
64	利光恵子	戦後日本における女性障害者への強制的な不妊手術	共著	2016年3月	立命館大学生存学研究センター	利光恵子著、松原洋子監修		全130頁
65	小西真理子	“Regards croisés entre l'éthique du care et le concept japonais d'Amae,” in Bourgault, S. & Perreault, J. (eds.), Le Care: Éthique Feministe Actuelle	共著	2015年8月	Remue-Ménage	編者 Bourgault, S. & Perreault, J.		261-273

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	立岩真也	「精神医療現代史へ・追記13—連載110」	単著	2015年4月	『現代思想』(43巻8号)		8-19	無
2	立岩真也	「精神医療現代史へ・追記・終—連載111」	単著	2015年5月	『現代思想』(43巻9号)		8-19	無
3	立岩真也	「そもそもなぜテストをするの?—学力テストから能力と評価の問題を考える」(鼎談)	共著	2015年5月	『教育と文化』(79巻)	池田賢市・桜井智恵子	8-27	無

4	立岩真也	「生の現代のために・3—連載 112」	単著	2015年6月	『現代思想』(43巻10号)		8-19	無
5	立岩真也	「補足したうえでざっと見取り図を書いてみる」	単著	2015年6月	『賃金と社会保障』(1635巻)		13-19	無
6	立岩真也	「尊厳死法制化について」	単著	2015年6月	『賃金と社会保障』(1635巻)			無
7	立岩真也	「生の現代のために・4—連載 113」	単著	2015年7月	『現代思想』(43巻11号)		8-19	無
8	立岩真也	「生の現代のために・5—連載 114」	単著	2015年8月	『現代思想』(43巻12号)		8-19	無
9	立岩真也	「生の現代のために・6—連載 115」	単著	2015年9月	『現代思想』(43巻13号)		8-19	無
10	立岩真也	「生の現代のために・7—連載 116」	単著	2015年10月	『現代思想』(43巻14号)		8-19	無
11	立岩真也	「生の現代のために・8—連載 117」	単著	2015年11月	『現代思想』(43巻15号)		8-19	無
12	立岩真也	「生の現代のために・9—連載 118」	単著	2015年12月	『現代思想』(43巻16号)		8-19	無
13	小川さやか	トランスナショナルなインフォーマル取引における道義的合法性をめぐって	単著	2016年1月	社会人類学年報(41号)		49-70	
14	小川さやか	笑いのあふれる世界と窮地—タンザニアの零細商人を事例に	単著	2016年3月	立命館言語文化研究(27巻4号)		87-102	
15	渡辺克典	オーストラリ・マイノリティ・リポート 解題	単著	2016年3月	生存学(9巻)			無
16	井上彰	"Does Sunstein and Thaler's Theory Have a Broad Scope?"	共著	2015年7月	WINPEC Working Paper Series(No.E1508号)	Kazumi Shimizu, Yoshiki Wakamatsu, Daisuke Udagawa	1-22.	無
17	井上彰	"Inequalities, Responsibility, and Rational Capacities: A Defence of Responsibility-Sensitive Egalitarianism"	単著	2016年2月	Australian Journal of Political Science(Online First巻)		1-16	査読有
18	上野千鶴子	解説 こじらせ女子の当事者研究	共著	2015年4月	雨宮まみ『女子をこじらせて』	雨宮まみ	244-262	
19	小泉義之	自閉症のリトルネロへ向けて	単著	2015年5月	現代思想(2015巻05号)		86-99	無
20	サトウタツヤ	文化心理学から見た食の表現の視点から食文化とその研究について考える	単著	2015年7月	社会システム研究		197-109	
21	サトウタツヤ	TEA (複線経路等至性アプローチ)	単著	2015年8月	コミュニティ心理学研究(19巻1号)		52-61	
22	千葉雅也	〔討議〕「後ろ暗さ」のエコノミー—超管理社会とマゾヒズムをめぐって	共著	2015年4月	早稲田文学(10号)	墨谷 渉, 羽田圭介	33-40	無
23	千葉雅也	アンチ・エビデンス—90年代的ストーリーの終焉と柑橘系の匂い	単著	2015年4月	10+1 web			無
24	千葉雅也	バロック的前提から過少の言葉へ	単著	2015年5月	現代思想(43巻9号)		132-135	無
25	千葉雅也	〔往復書簡〕権威(オーソリティ)の問題—思弁的实在論か	共著	2016年1月	現代思想(44巻1号)	アレクサンダー・ギャロウエイ, 千葉雅也著, 小倉	44-51	無

		ら出発して				拓也, 千葉 雅也 訳		
26	千葉雅也	緊張したゆりみをも つ言説のために	単著	2016年2月	ユリイカ(48巻4号)		14-21	無
27	千葉雅也	[対談] 哲学者 千葉 雅也さんとの対話 (前・後編)	共著	2016年3月	2CHOPO	千葉 雅也, 溝口 彰子		無
28	長瀬 修	障害者権利委員会委員 選挙—第9回締約 国会議	単著	2015年12 月	福祉労働(149号)		136-137	無
29	長瀬 修	第14会期障害者権利 委員会(下)ーケニア への総括所見を中心 に	単著	2015年12 月	DPI(31巻4号)		41-43	無
30	長瀬 修	「合理的配慮」を促 す障害者差別解消法 4月施行前に—展望 と課題 共に働き、 生きる社会は建設的 対話が第一歩	単著	2016年2月	公明(123号)		50-55	無
31	長瀬 修	持続可能な開発目標 (SDGs)と障害— 第54会期社会開発委 員会パネル	単著	2016年3月	福祉労働(150号)		88-89	無
32	中村 正	臨床社会学の方法 (11)マトリックス— その暴力は偶然では ない	単著	2015年12 月	対人援助学マガジン(6巻3号)		19-28	
33	中村 正	臨床社会学の方法 (12)ブランド・ハプ スタンス—計画され た偶発性	単著	2016年3月	対人援助学マガジン(6巻4号)		20-30	
34	中村 正	社会問題研究におけ る社会構築主義と批 判的实在論	単著	2016年3月	立命館産業社会論集(51巻4 号)		191-211	
35	中村 正	暴力臨床論の展開の ために—暴力の実践 を導く暗黙理論への 着目	単著	2016年3月	立命館文学(646号)		100-114	
36	松原洋子	「書評 湯浅俊彦編 著『デジタル環境下 における出版ビジネ スと図書館—ドキュ メント『立命館大学 文学部湯浅ゼミ』」	単著	2015年9月	国際公共経済研究(25号)		260-261	無
37	松原洋子	まえがき	単著	2016年3月	利光恵子(著)、松原洋子(監 修)『日本における女性障害者 への強制的な不妊手術』、立命 館大学生存学研究センター		3-4	無
38	美馬達哉	正常・病理・エンハ ンスメント(特集 スポ ーツ・身体と科学技 術のサイエンス・カ フェ)	単著	2015年	スポーツ社会学研究(23巻1 号)		7-18	無
39	やまだよう こ	「生涯発達心理学の 立場から」	単著	2015年	宮原暁編『「いたみ」「かな しみ」「他者の現場」フィールド ワークを問う』(大阪大学グ ローバルコラボレーションセン ター)		73-87	
40	やまだよう こ	「老いることの意味 を問う」		2016年	生存学(9号)		274-276	無
41	渡辺公三	冷戦期における「構 造」の生成—レヴィニ ストロースの探究—	単著	2015年6月	精神医学史研究(19巻①号)		17-21	

42	高誠晩	反共社会を生き抜くための体験記述—濟州4・3事件にかかわる公的文書を読み解く	単著	2016年	人権問題研究(14巻)			無
43	中倉智徳	イノベーション、社会、経済—ガブリエル・タルドと戦間期アメリカにおける「発明の社会学」	単著	2015年6月	年報 科学・技術・社会(24巻)		35-57	査読有
44	中倉智徳	「19世紀末フランスにおける「科学の哲学」としての社会学—ガブリエル・タルドのネオ・モノドロジ—成立過程」	単著	2015年9月	『フランス哲学・思想研究』(20号)		15-28	無
45	中倉智徳	「社会学における倫理的自然科学の可能性について—フィリップ・ゴルスキ「事実/価値区分を越えて」論文を中心に」	単著	2016年3月	『生存学研究センター報告 26 生存をめぐる規範と秩序』、立命館大学生存学研究センター		76-87	無
46	中倉智徳	「フランスにおける「イスラモフォビアの社会学」をめぐるノート—概念をめぐって」	単著	2016年3月	『生存学』vol.9		120-127	無
47	櫻井悟史	「日本陸軍軍法会議とBC級戦争犯罪裁判の結節点—坂田良右衛門による『クラチエ事件』調査」	単著	2016年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存をめぐる規範と秩序』(生存学研究センター報告26)	藤原信行・中倉智徳編	190-218	無
48	由井秀樹	家族の形成と解体—不妊クリニックへの通院を経て里子を迎えた養育里親の語りから	単著	2016年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学研究センター報告』25	吉田一史美・由井秀樹編	166-179	無
49	由井秀樹	体外受精の臨床応用と日本産科婦人科学会の「見解」	単著	2016年3月	立命館大学生存学研究センター、『生存学研究センター報告』25	吉田一史美・由井秀樹編	12-30	無
50	由井秀樹	戦前・戦中期東京府における医療施設出産	単著	2015年	日本保健医療社会学会、『保健医療社会学論集』26(2)	日本保健医療社会学会	43-53	査読有
51	由井秀樹	男性不妊の不可視化と母性保護概念—非配偶者間人工授精は誰のための処置だったか?	単著	2015年	家族問題研究学会、『家族研究年報』40	家族問題研究学会	7-23	無
52	孫美幸	韓国民話における「異人」への眼差し—韓国社会の多文化教育のあり方を考えるために	単著	2016年2月	日本ホリスティック教育協会、ホリスティック教育研究第19号		1-13	査読有
53	坂井めぐみ	【書評】『生殖技術—不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』(柘植あづみ、みずず書房、2012年9月)	単著	2015年4月	『科学史研究』273号54巻		63-64	無
54	桐原尚之	「処遇困難者専門病棟」新設阻止闘争の歴史—精神障害者の社会運動の視角から	単著	2016年3月	『Core Ethics』12	『Core Ethics』編集委員会	51-61	査読有

55	桐原尚之	1987年精神衛生法の政策過程—利益集団の動き	単著	2016年2月	『立命館人間科学研究』33	立命館大学人間科学研究所	29-43	査読有
56	桐原尚之	入院患者本人は退院を希望しているが主治医や保護者が退院に反対している場合の退院支援の事例	単著	2015年9月	『病院・地域精神医学』(58)1	『日本病院地域精神医学会』編集委員会	97-101	査読有
57	桐原尚之	運転免許問題—ひとつの事例報告	単著	2015年12月	『全国「精神病」者集団ニュース』(41)4	全国「精神病」者集団	3-4	無
58	岩田京子	「第6章 コミュニケーションから創られる場所性—京都市の事例から」,	単著	2016年3月	時潮社、『景観人類学—身体・政治・マテリアリティ』	河合洋尚	167-193	無
59	中西京子	訪問看護ステーションにおける看護職の裁量の拡大と法的責任	単著	2016年3月	立命館大学大学院先端総合学術研究科『Core Ethics』vol.12	『コア・エシックス』編集委員会(編)	237-248	査読有
60	伊東香純	ストレングスモデルにおけるリカバリー概念の批判的検討	単著	2016年3月	立命館大学大学院先端総合学術研究科『Core Ethics』vol.12	『コア・エシックス』編集委員会(編)	1-11	査読有
61	金友子	マイクロアグレッション概念の射程	単著	2016年3月	立命館大学生存学研究センター編『(抵抗)としてのフェミニズム』(センター報告第24号)	堀江有里・山口真紀・大谷通高 編	105-123	無
62	堀江有里	「(結婚)をめぐる抗争—同性間パートナーシップの法的保護と可視化戦略の陥穽」	単著	2015年7月	公益財団法人世界人権問題研究センター、『研究紀要』第20号		277-301	
63	堀江有里	「(反婚) 試論—家族規範解体をめぐる覚書」	単著	2015年9月	青土社、『現代思想』第43巻・第16号(2015年10月号)		192-200	
64	堀江有里	「話題化する『同性婚』—行政の承認とマーケティング戦略をめぐる」	単著	2016年1月	『PACE (パーチェ)』第10号		61-68	
65	堀江有里	「『個人的なことは政治的なこと』をめぐる断章」	単著	2016年3月	立命館大学生存学研究センター編『(抵抗)としてのフェミニズム』(センター報告第24号)	堀江有里・山口真紀・大谷通高 編	124-152	無
66	堀江有里	「ハードロック音楽とジェンダー/セクシュアリティ—プレイヤー戦略とオーディエンスの読みをめぐる」	単著	2016年3月	日本女性学会『女性学』第23号		88-97	
67	小門穂	生殖補助医療における選択—配偶子提供者をめぐるフランスの現状	単著	2016年3月	『女性学評論』第30号		21-41	無
68	小門穂	A new phase in the regulation of assisted reproductive technology in Japan	単著	2015年	Journal of Japanese Law, No. 40 (2015)		211-232	無
69	小門穂	同性カップルによる生殖補助医療技術の利用—フランスの現状から	単著	2015年6月	『女性空間』第32号		6-18	無
70	利光恵子	特集 出生前診断を考える いのちをふるい分けるということ—新型出生前検	単著	2015年5月	部落解放・人権研究所、『ヒューマンライツ』326号		2-10	無

		査と着床前スクリーニングから考える						
71	利光恵子	優生手術という人権侵害—子どもをもつことを奪われた人々の訴え	単著	2015年6月	現代書館、『季刊福祉労働』147号		98-103	無
72	利光恵子	1990年代以降の日本における着床前診断をめぐる論争の推移—着床前スクリーニング(PGS)を中心に	単著	2016年3月	立命館大学生存学研究センター『生存学研究センター報告』25号	吉田 一史美・由井秀樹編	31-60	無
73	堀田義太郎	「何が差別を悪くするのか—不利益説の批判的検討」	単著	2016年3月	『倫理学年報』、第65集		279-292	査読有
74	堀田義太郎	「正義論と障害」	単著	2016年3月	『生存をめぐる規範と秩序(生存学センター報告26号)』	藤原信行・中倉智徳編	16-35	無
75	堀田義太郎	「性差別の構造について—江原由美子の性支配論をめぐる」	単著	2016年3月	『〈抵抗〉としてのフェミニズム(生存学研究センター報告24号)』	堀江有里・山口真紀・大谷通高編	207-224	無
76	堀田義太郎	「差別煽動としてのヘイトスピーチの悪質さ」	単著	2016年3月	『生存学』、第9号		10-25	無
77	堀田義太郎	「書評 香川千晶・小松美彦編著『生命倫理の源流—戦後日本社会とバイオエシックス』」	単著	2015年11月	『社会と倫理』、30巻		270-271	無
78	堀田義太郎	「トークセッションいのちをわけること、わけないこと、選ぶこと、選ばないこと」	共著	2015年4月	『支援』、5巻		146-186	無
79	植村要	「媒体変更によって生じる視覚障害者と晴眼者との世界の摩擦について」	単著	2015年4月	『花園大学人権教育研究センター報』(27巻)		24-26	無
80	安田裕子	コミュニティ心理学における TEM/TEA 研究の可能性	単著	2015年8月	コミュニティ心理学研究(19巻1号)		62-76	無
81	小西真理子	「共依存」再考—フェミニズムによる批判的検討	単著	2015年6月	『倫理学研究』45巻		123-133	査読有
82	小西真理子	DV における分離政策のオルタナティブのために—リンダ・ミルズおよび修復的正義の視点—	単著	2015年9月	『生存学研究センター報告：〈抵抗〉としてのフェミニズム』24巻	堀江有里・山口真紀・大谷通高編	88-104	無
83	小西真理子	ケアの倫理に内在する自立主義—相互依存・依存・共依存の検討を通じて—	単著	2015年11月	『倫理学年報』65巻		265-278	査読有
84	永田貴聖	日本・韓国のフィリピン人たちによる複数の国家・国民とかわる実践	単著	2016年3月	新幹社『「国家」を超えるとは—民族・ジェンダー・宗教』	黒木雅子・李恩子(編)	151-199	無
85	永田貴聖	「『韓国』を消費するだけではない日本人の存在—政治的な日韓関係を超越する関係についての試論」	単著	2016年3月	生活書院『生存学』Vol.9	立命館大学生存学研究センター編	94-107	無
86	永田貴聖	書評「三浦綾希子著『ニューカマーの	単著	2016年3月	『移民研究年報』22、日本移民学会		90-93	査読有

		子どもと移民コミュニティ—第二世代のエスニックアイデンティティ』						
87	永田貴聖	「イロイロ ぬくもりの記憶」※映画解説	単著	2015年12月	『社会科 NAVI』2015年Vol.11 日本文教出版		16-17	無
88	永田貴聖	味の根っこ アドボ〜フィリピンの歴史がつまんだ料理	単著	2015年10月	『月刊みんぱく(特集 混住)』第39巻10月号 国立民族学博物館		14-15	無
89	永田貴聖	「フィリピンの曲?」	単著	2015年6月	『毎日新聞(夕刊)』			無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	小川さやか	アフタートーク	2015年12月	岡崎藝術座『イスラ!イスラ!イスラ!』京都公演	
2	小川さやか	講師:もやもやフィールドワーク分析編	2015年12月	東京迂回路研究会	
3	小川さやか	対談:「七回目のマリア」	2015年4月	ラディカルダイアログ	椿昇
4	小川さやか	「ポピュラーカルチャーの裏の裏—アフリカは陽気で日本はマジメか?」	2015年4月	シンポジウム『Pop Africa 2015』	久保明教
5	小川さやか	「趣旨説明 アフリカの社会変容と笑い」	2015年5月	日本アフリカ学会第52回学術大会	
6	小川さやか	「隙間を生きる変人がこれからの日本をつくる」	2015年6月	出版記念トークショー『シェルターからコックピットへ—飛び立つスキマの設計学』	椿昇、原田祐馬
7	小川さやか	書評:磯野真穂著『なぜふうつうに食べられないのか』	2015年10月	まるはち人類学会書評会	
8	小川さやか	<借り)を回すシステム—タンザニアにおける携帯による送金システムを事例に	2015年11月	日本アフリカ学会関西支部若手部会	
9	渡辺克典	障害者/マイノリティの差別現象への法的介入をめぐる基礎研究	2015年11月	人間科学研究所年次総会(「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」プロジェクト公開研究会)	
10	サトウタツヤ	The effect of presentation of video-taped investigation on jury decision making	2015年8月	European Association of Psychology and Law + WORLD Conference 2015(Nurumberg, Germany)	Nakata, Y.
11	サトウタツヤ	Proposal of discussion pattern in Japanese lay judge system by qualitative analysis method.	2015年8月	European Association of Psychology and Law + WORLD Conference 2015(Nurumberg, Germany)	Kosaka, Y.
12	サトウタツヤ	Efforts to promote and maintain employment of probationers/parolees by cooperative employers.	2015年8月	European Association of Psychology and Law + WORLD Conference 2015 (Nurumberg, Germany)	Saito, A.
13	サトウタツヤ	Potentials of trajectory equifinality approach in Developmental Psychology.	2015年9月	7th European Conference on Developmental Psychology (Braga, Portugal)	Mattos, de E., Salgado, J., Kido, A., Tian, Y., & Yasuda, Y.
14	サトウタツヤ	Understanding the development of students who had experienced school nonattendance.	2015年9月	7th European Conference on Developmental Psychology (Braga, Portugal)	Kanzaki Mami
15	サトウタツヤ	Cultural Transition of Chinese Students in Japan: Understanding the Process of Value Transformation by Using	2015年9月	7th European Conference on Developmental Psychology (Braga, Portugal)	Tian, Y.

		Trajectory Equifinality Approach.			
16	サトウタツヤ	The learning process of university students both in lectures and in extracurricular activities : From the interview with senior students	2015年9月	7th European Conference on Developmental Psychology (Braga, Portugal)	Daichi Shimizu
17	サトウタツヤ	Career Identity Work - Visualization of the process of students' career development in school-to-work transition -	2015年9月	IAEVG International Conference Tsukuba	Kiyomi Banda, Namiko Takahashi, and Yuko Yasuda
18	サトウタツヤ	社会問題解決型心理学の可能性；学際から学融へ	2015年9月	日本心理学会第79回大会	
19	サトウタツヤ	心理調査士の現状と展望；学際から学融へ	2015年9月	日本心理学会第79回大会	
20	サトウタツヤ	3D Visualization of the "Free Conviction": The Decisions of the Nabari Case.	2015年10月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	Saki Yamada
21	サトウタツヤ	Are probationers/parolees really different from non-probationers/non-parolees after reintegration?: An analysis of employer interviews by applying the Trajectory Equifinality Model	2015年10月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	Ayako Saito
22	サトウタツヤ	Consideration of discussion pattern in Japanese citizen judge system; integration of qualitative and quantitative analysis	2015年10月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	Yuki Kosaka
23	サトウタツヤ	How should be video-record of police investigations?: Focus On Camera perspective and presentation style	2015年10月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	Yuki Nakata
24	サトウタツヤ	Ethnography of Temporally Housing in Fukushima Prefecture: Aim to Construct Resilient Society.	2015年10月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	Ayae Kido, Shoka Amano
25	サトウタツヤ	日本独自の取調べ録画映像提示方式は自白の任意性に影響を与えるか？ - 画面との比較から -	2015年10月	法と心理学会第16回大会	中田友貴
26	千葉雅也	The Deleuzian Negativity Revisited	2015年12月	Deleuzian Aftereffects: Interventions from Japan	
27	長瀬 修	Keynote Speech International Perspectives and Experiences National Harmonization of the CRPD by Japan	2015年12月	CRPD International Conference	
28	長瀬 修	Implementation of the SDGs and the CRPD	2016年2月	Panel on the post- 2015 development agenda in light of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities, 54th session of the United Nations Commission on Social Development	

29	長瀬 修	障害者権利条約の実施の国際的課題と東アジア	2016年2月	社会的障害と経済理論 (REASE) 公開講座	
30	松原洋子	大学図書館のアクセシビリティテキストデータ提供サービスを中心に	2016年2月	日本図書館研究会第57回(2015年度)研究大会シンポジウム「障害者差別解消法の施行と図書館」	
31	松原洋子	電子図書館のアクセシビリティ向上の取り組み—兵庫県三田市立図書館の実証実験を中心に	2016年3月	公開シンポジウム「電子書籍の出版・流通と図書館の課題—読書アクセシビリティを中心に」	
32	やまだようこ	「道」のイメージともの語り	2015年5月	京都フォーラム	
33	やまだようこ	もの語る力をはぐくむ教育—ふるさとの誇りと復活力をもつ子の育成	2015年6月	平成27年度教育センター研修講座第1回重点講話2015	
34	やまだようこ	ビジュアル・ナラティブを生かす	2015年6月	京都フォーラム	
35	やまだようこ	もの語りと復活力(レジリエンス)	2015年8月	遠野みらい創りカレッジ 研修会	
36	やまだようこ	Mediation models in triadic relationships: Visual narratives, coordination, and caring	2015年9月	17th European Conference on Developmental Psychology	Yamada C
37	やまだようこ	ビジュアル・ナラティブの方法論	2015年9月	日本心理学会第79回 チュートリアルワークショップ	
38	やまだようこ	PTAの現状と課題をどのように「可視化」するか?: 文化、ジェンダー、道徳性	2015年9月	日本心理学会 日本心理学会第79回 公募シンポジウム	竹尾 和子・戸田 有一・尾見 康博・加藤 薫
39	やまだようこ	心理学の視点から見た被災者の語りと復興	2015年10月	日本質的心理学会第12回大会 シンポジウム	
40	やまだようこ	喪失と再生のビジュアル・ナラティブ: 日系アメリカ人の強制収容所の事例から	2015年10月	日本質的心理学会第12回大会 シンポジウム	
41	やまだようこ	壊れやすさからレジリエンスへ	2015年11月	ボリス・シリユルニク講演会・シンポジウム「自分を救え、命があなたを呼んでいる」	
42	やまだようこ	死生観のナラティブ・ワーク	2015年12月	なにわ緩和ケア研究会	
43	やまだようこ	もの語りとしなやかさ(ナラティブとレジリエンス)	2016年1月	ナレッジフォーラム	
44	やまだようこ	喪失と再生のビジュアル・ナラティブ	2016年2月	シンポジウム「混成する文化: 歴史と物語の交点」	
45	やまだようこ	Visual narrative and folk psychology :Image drawings of life, death the soul and the afterlife	2016年3月	3rd International Irish Narrative Inquiry Conference	
46	望月茂徳	車椅子DJ:車輪回転速度に連動した音楽再生車椅子の開発	2016年3月	インタラクション2016	目次護
47	高誠晩	南西諸島出身の行方不明者が台湾『二二八事件受難者』になるということ	2015年4月	第6回戦争社会学研究会大会	
48	高誠晩	大量虐殺以後の家系記録—台湾二二八事件にまつわる南西諸島出身の行方不明者の事例から	2015年5月	日本文化人類学会第49回研究大会	
49	高誠晩	韓国と日本における「済州四・三事件」研究の動向と課題	2015年6月	第1回済州四・三文学研究会「済州四・三研究の現況とその文学的表象の位置」	
50	高誠晩	20世紀東アジアの紛争後社会における「移行期正義」と大量死の意味づけ	2015年7月	第116回サロン de 人権	
51	高誠晩	「4・3犠牲者」になるということ—再構成される虐殺経験と家族叙事の統合と亀	2015年8月	第12次 KOREA 学国際学術討論会	

		裂			
52	高誠晩	「南南葛藤」を越えて「南北和解」へ？— 済州 4・3 事件の過去清算と「不良位牌」論争を事例に	2015 年 9 月	2015 統一人文世界フォーラム学術会議「東アジアにおける伝統文化と現代的価値」	
53	中倉智徳	「母子世帯の子育ての困難をめぐる重層的要因—大阪府の支援団体調査からの分析」	2015 年 12 月	社会文化学会第 18 回全国大会	村上潔 (代表)・堅田香緒里・村上慎司・笹谷絵里
54	櫻井悟史	「博士論文「死刑執行の歴史と理論—日本の死刑制度存廃論批判」について」	2015 年 5 月	第 2 回サテライト研究会	
55	櫻井悟史	「戦後の死刑論争史—死刑制度合憲から絞首刑合憲まで」	2015 年 7 月	同時代史学会第 17 回関西研究会	
56	櫻井悟史	「福間良明・山口誠編『「知覧」の誕生—特攻の記憶はいかに創られてきたのか』第二部についてのコメント」	2015 年 9 月	福間良明・山口誠編『「知覧」の誕生—特攻の記憶はいかに創られてきたのか』合評会	
57	由井秀樹	公募ワークショップ 生殖と医療をめぐる現代史研究と生命倫理	2015 年 11 月	第 27 回日本生命倫理学会年次大会	由井秀樹 (オーガナイザー兼報告者)・利光恵子・山本由美子・吉田一史美
58	由井秀樹	体外受精の臨床応用と日本受精着床学会の設立	2015 年 11 月	日本科学史学会第 19 回西日本研究大会	
59	由井秀樹	日本における体外受精研究黎明期分野横断型共同研究	2015 年 5 月	日本科学史学会第 62 回年会・総会	
60	由井秀樹	戦前・戦中期日本の都市部における出産の施設化—東京の低所得者向け産院、産院を前身とする病院における分娩取扱状況の分析	2015 年 5 月	第 41 回日本保健医療社会学会大会	
61	孫 美幸	韓国における多文化共生といのちの思想に関する考察—民話の中の「異人」分析を中心に	2015 年 6 月	日本ホリスティック教育協会 2015 年度研究大会 (同志社大学)	
62	孫 美幸	多文化共生教育を深めるために—研究と実践の間に立って	2015 年 6 月	2015 年度第 11 回ライスボールセミナー (立命館大学)	
63	孫 美幸	多文化共生教育の成立背景と実践への影響—日本と韓国の比較を通して	2015 年 7 月	2015 年度国際地域研究所第 1 回トランスナショナル移民研究会 (立命館大学)	
64	孫 美幸	「語り」を織り成す文化背景を読み解くために—伝承民話集『聴耳草子』における「異人」たちと「多文化共生」	2016 年 2 月	2015 年度生存学研究センター第 3 回現代社会エスノグラフィ研究会 (立命館大学)	
65	神崎真実	Understanding the development of students who had experienced school nonattendance	2015 年 9 月	17th European Conference on Developmental Psychology.	Kanzaki Mami and Sato Tatsuya
66	神崎真実	今、通信制高校のはたすべき役割とは	2015 年 10 月	日本通信教育学会 63 回研究協議会	松本幸広・雨宮勝・神崎真実・三森睦子
67	神崎真実	通信制高校生の生活と人生—答えのない学びについて共に考える	2016 年 2 月	「これからの子育て・教育を考えるフォーラム」, 分科会 C: 研究者が見るオルタナティブ教育の実践	
68	神崎真実	高校教育における通信制高校の配置—『校長先生の訓話』から読み解く各教育実践の特色	2016 年 3 月	第 3 回日本通信教育学会研究交流集会	
69	植村要	障害者差別解消法と公共図書館	2015 年 6 月	2015 年度上半期ライブラリー・アカデミー 第 20 回	

70	植村要	図書資料のテキストデータ提供の課題—立命館大学図書館の実践から	2015年6月	一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会 第1回大会	松原洋子
71	藤原信行	うつ病という自殺動機の付与と死の責任の宛先の決まり方	2015年9月	第88回日本社会学会大会	
72	藤原信行	ミルズ「社会病理学者」批判論文の内実と現代社会病理学研究	2015年10月	日本社会病理学会第31回大会	
73	吉田一史美	「1970年代以降の日本における妊娠相談と養子縁組をめぐる運動と論争」	2015年11月	第27回日本生命倫理学会年次大会	
74	吉田一史美	「産屋習俗の存続・終焉における男性と近代産婆の位置づけ」	2016年3月	出生をめぐる倫理研究会 公開研究会 「出産をめぐる習俗と近代化—産屋の存続と閉鎖」	
75	齋藤絢子	Are probationers/parolees really different from non-probationers/non-parolees after reintegration?: An analysis of employer interviews by applying the Trajectory Equifinality Model	2015年10月	9th East Asian Law and Psychology conference	
76	齋藤絢子	Efforts to promote and maintain employment of probationers/parolees by cooperative employers	2015年8月	European Association of Psychology and Law + WORLD Conference 2015	
77	齋藤絢子	更生の道を時間と社会に拓くということ—加害性と被害性に留意して—	2015年9月	日本心理学会第79回大会	安田 裕子・松嶋 秀明・久保 樹里・大倉得史・森 直久
78	齋藤絢子	市教育委員会と連携した活動拠点の開設と大学生ボランティアの活動状況	2016年2月	国都道府県立ち直り支援ボランティア・リーダーシップ研修会	竹内 敏晃
79	齋藤絢子	出所者等に対する就労支援にかかわる協力雇用主の心理的変容の研究	2015年7月	KTH 研究会	
80	坂井めぐみ	戦時日本における脊髄損傷の医療史—脊髄戦傷者の治療・療養を中心に	2015年5月	日本科学史学会総会 第62回年会	
81	桐原尚之	Item 4: Sharing Asian country experiences on advocacy for inclusive policy	2015年11月	TCI Asia Workshop on Transforming Communities for Inclusion 18(Wed) November 2015	
82	桐原尚之	ニーズの社会問題研究と「精神病」者の当事者性—“クレーム”と“反逆”	2015年11月	障害学会第12回大会(於:兵庫・関西学院大学)	
83	桐原尚之	医療保護入院と法的能力	2015年11月	第58回病院・地域精神医学会大会(於:東京・バルテノン多摩)	
84	桐原尚之	法的能力の平等としての意思決定支援	2015年10月	第58回日本弁護士連合会人権擁護大会シンポジウム・成年後見制度から意思決定支援制度へ	
85	桐原尚之	医療保護入院と法的能力	2015年10月	「精神保健と医療・社会」研究会	
86	桐原尚之	法的能力平等としての意思決定支援	2015年9月	「精神保健と医療・社会」研究会	
87	安孝淑	【書評】ハン・ビョン Chol(著)キム・テファン(訳)『疲労社会』	2015年8月	規範×秩序研究会夏期研究合宿	
88	中西京子	産後女性における骨盤底筋力測定器に対する捉え方	2015年10月	第3回看護理工学会学術集会	内藤紀代子、二宮早苗、中西京子、岡山久代、森川茂廣
89	中西京子	座位MRI画像を用いた女性の骨盤内臓器下垂に影響する要因の検討	2015年10月	第3回看護理工学会学術集会	二宮早苗、岡山久代、内藤紀代子、中西京子、遠藤善裕、森川茂廣

90	中西京子	Comparison of the Effect of Support power of Underwear and pelvic Floor Muscle Training for Reducing Women's Urinary Incontinence	2016年3月	17Th International EAUN Meeting	Hisayo Okayama, Sanae Ninomiya, Kiyoko Naito Kyoko Nakanishi Yoshino Saito
91	中西京子	Effectiveness of the enlightenment using a leaflet of self-care for Prevention and improvement of urinary incontinence in women	2016年3月	17Th International EAUN Meeting	Kiyoko Naito Sanae Ninomiya, Kyoko Nakanishi Yoshino Saito Hisayo Okayama,
92	伊東香純	The Formation of TransAsian Alliance of Persons with Disabilities Psychosocial Disabilities: On Transforming Communities for Inclusion in Asia (TCI-Asia)	2015年11月	East Asia Disability Studies Forum	
93	伊東香純	AA とサバイバーの運動を一括りにする言説の批判的検討—メアリー・オーヘイガンの指摘を基に	2015年11月	第58回日本病院・地域精神医学会総会	
94	金友子	大学キャンパス内での民族差別	2015年5月	2015年度同志社大学日朝関係史講座(招待講演)(同志社大学・京都)	
95	金友子	1968年「金嬉老事件と1960～70年代日本における在日朝鮮人差別問題	2015年9月	2015年統一人文世界フォーラム(延辺大学・中国)	
96	金友子	在日朝鮮人に対する差別語を考える—大学という空間から	2015年12月	2015年専門家招請シンポジウム:解放70年にあたっての在日こり案問題(招待講演)(済州大学校・韓国)	
97	堀江有里	「同性婚反対論にみる『家族』規範—『反婚』からの抵抗可能性」	2015年5月	日本女性学会 2015年度大会	
98	堀江有里	「日本における同性カップルの権利保障をめぐる可視化戦略の陥穽」	2015年9月	日本ジェンダー学会第19回大会	
99	堀江有里	「日本におけるクィア神学の可能性—日本基督教団の事例から」	2016年3月	シンポジウム「クィア神学の課題と可能性」(主催:国際基督教大学ジェンダー研究センター)	
100	堀江有里	「(反婚)のフェミニスト神学—レズビアン・アイデンティティーズの視点から」	2016年3月	日本フェミニスト神学・宣教センター例会	
101	利光恵子	1990年代以降の日本における着床前診断をめぐる論争の経緯	2015年11月	第27回日本生命倫理学会年次大会公募ワークショップ「生殖と医療をめぐる現代史研究と生命倫理」	
102	利光恵子	日本における着床前診断について	2016年2月	日本医学哲学・倫理学会公開講座「生命への始まりへの介入はどこまで認められるか—卵子提供、代理出産・出生前検査・着床前診断」	
103	利光恵子	日本における着床前診断をめぐる争いの現代史	2016年3月	西南大学公開シンポジウム「障害学との対話—新型出生前診断の時代に」	
104	小門穂	代理出産ツーリズムと国内規制—フランスの現状から	2015年11月	第27回日本生命倫理学会年次大会	
105	小門穂	生殖補助技術をめぐる議論の歴史と今—フランスを中心に	2016年2月	生殖補助技術と社会の関係を考える研究会	
106	小門穂	『フランスの生命倫理法—生殖医療の用いられ方』著者報告	2015年12月	立命館大学生存学研究センター若手研究者研究力強化型プロジェクト出生をめぐる倫理研究会四単著合同研究会	
107	小門穂	「授かる」から「作る」へ?—生殖をめぐる技術の発展	2015年5月	2015年度神戸女学院大学女性学インスティテュート主催特別講演会	

		と課題			
108	浜田明範	なぜ世帯という単位は機能しなかったのか—家族を要請しない社会を考える	2015年6月	国立民族学博物館共同研究「家族と社会の境界面の編成に関する人類学的研究—保育と介護の制度化／脱制度化を中心に」	
109	浜田明範	西アフリカのカカオ農村地帯における生物医療と感染症	2015年6月	海外学術調査フォーラム	
110	浜田明範	Interference in a Milieu: On Multiple Governments of Multiple Actors around Tuberculosis Treatment Projects in Southern Ghana	2015年9月	International Symposium “How Do Biomedicines Shape Life, Sociality and Landscape?”	
111	浜田明範	妖術による媒介：ガーナ南部における王権闘争をめぐる	2015年10月	国立民族学博物館共同研究「呪術的实践＝知の現代的位相—他の諸実践＝知との関係性に着目して」	
112	浜田明範	Restyling the Milieu: On Milieu Making Practices around Tuberculosis Treatment Projects in Southern Ghana	2016年2月	Japanese Scholars Afternoon	
113	堀田義太郎	「差別煽動としてのヘイト・スピーチの悪質さ」	2015年12月	日本現象学・社会科学会、立正大学	
114	堀田義太郎	「遺伝子改変批判論の可能性と限界」	2015年11月	日本生命倫理学会 第27回年次大会	
115	堀田義太郎	「卵子提供をめぐる倫理的諸問題について」	2016年2月	「生命の始まりへの介入はどこまで認められるか—卵子提供・代理出産・出生前診断・着床前診断（2015年度日本医学哲学・倫理学会 公開講座）」	
116	安原荘一	日本の障害者施設における利用者タイムカード制度について	2015年12月	障害学国際セミナー	
117	安田裕子	Potentials of trajectory equifinality approach in Developmental Psychology	2015年9月	17th European Conference on Developmental Psychology	Sato, T., Mattos, de E., Salgado, J., Kido, A., Tian, Y.
118	安田裕子	複線径路等至性 (TEM) アプローチとテキストマイニングによる混合研究法／協働により何が捉えられるか？(ワークショップ講師)	2015年9月	国際混合研究法学会 アジア地域会議／第1回日本混合研究法学会	廣瀬真理子
119	安田裕子	Career Identity Work: Visualization of the process of students'career development in school-to-work transition	2015年9月	IAEVG International Conference	Banda, K., Takahashi, N., Sato, T.
120	安田裕子	夫婦・家族関係における協同	2015年9月	日本心理学会第79回大会	増井秀樹・水澤慶緒里・黒澤泰・滑田明暢・小崎恭弘
121	安田裕子	更生の道を時間と社会に拓くということ—加害性と被害性に留意して	2015年9月	日本心理学会第79回大会	松嶋秀明・久保樹里・齋藤絢子・大倉得史・森直久
122	安田裕子	質的研究方法を基礎とした思考技術プログラム開発の試み「時間的展望(過去・現在・未来)能力に着目したキャリア発達支援ツール」	2015年10月	日本質的心理学会第12回大会	豊田香・番田清美・岡部大祐
123	安田裕子	対話的自己理論の展開と応用—共生社会に生きる私とあなたへの接近	2015年10月	日本質的心理学会第12回大会	森岡正芳・サトウタツヤ・黒羽カテリーナ・山田嘉徳・小澤義雄・滑田明暢
124	安田裕子	児童期の性的虐待被害とその回復をめぐる法心理 2—	2015年10月	法と心理学会第16回大会	松本克美・金成恩

		ドイツ・韓国調査の報告			
125	小西真理子	“Relational Perspectives on “True Self” Analyzing Psychoanalytic and Popular Psychological Theories”	2015年6月	IARPP 2015 Conference “The Relational Pulse: Controversies, Caricatures and Clinical Wisdom”	
126	小西真理子	DV対策初動における分離とは異なる解決策の必要性—Millsの議論と修復的正義の視点から	2015年9月	ジェンダー法学会若手企画 2015年秋 季研究会	
127	小西真理子	レジリエンスとトラウマ回復理論—ボリス・シリユルニクの自己物語の解釈をめぐって	2015年11月	ボリス・シリユルニク氏講演会・シンポジウム「自分を救え、命があなたを呼んでいる Sauve-toi, la vie t'appelle」	
128	永田貴聖	フィリピン人移住者とは京都のフィリピン人	2016年1月	京都YWCA 2016年研修 テーマ「外国にルーツを持つ子どもたちの教育現場は今」場所：京都YWCA	
129	永田貴聖	「イロイロぬくもりの記憶」映画解説	2015年12月	みんなく映画会 新展示関連 映画で知る東南アジア	
130	永田貴聖	Spaces in Consociation of Filipino Migrants in Seoul of Korea.	2015年8月	The European Association for Southeast Asian Studies (EuroSEAS) 8th conference, Panel Session “Recent Developments in Philippine Migration”, University of Vienna, Austria	
131	永田貴聖	在日フィリピン人コミュニティを中心とする関係の広がり—京都市に注目して	2015年5月	関西社会学会 立命館大学衣笠キャンパス 第66回大会 若手企画部会『地域社会をデザインする社会学に向けて—京都における多文化的状況を通して』 代表者：山本崇記	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	ワークショップ「再帰的なグローバル社会における自己・身体・障がい」	衣笠キャンパス	2015年6月	25	
2	斎藤清二先生講演会「ナラティブ・アプローチからみた大学生支援システムの構築と運営」	衣笠キャンパス	2015年6月	60	日本心理学会ナラティブと質的研究会、日本発達心理学会ナラティブと質的研究分科会
3	アフリカセミナー11「植民地期の狂気：現代アフリカの精神障害を考えるためのプロローグ」	衣笠キャンパス	2015年6月	30	日本アフリカ学会関西支部
4	ボリス・シリユルニク氏招聘ブレ企画①トラウマと歓待	衣笠キャンパス	2015年6月	25	
5	ボリス・シリユルニク氏招聘ブレ企画②雨と土の物語	衣笠キャンパス	2015年7月	25	
6	マサミ・タカハシ先生講演会「アンチエイジング」を問う：歳をとらずにシワをとる？加齢現象をどのように考えるか	衣笠キャンパス	2015年7月	60	日本心理学会ナラティブと質的研究会、日本発達心理学会ナラティブと質的研究分科会
7	アフリカセミナー12「生物医療・民族・信頼：ナイジェリア・ラゴス州エゲンによるマラリア治療の探求」	衣笠キャンパス	2015年7月	20	日本アフリカ学会関西支部
8	ヘイトスピーチに抗する—路上・学校・大学	衣笠キャンパス	2015年7月	70	人間科学研究所
9	研究会 精神障害者の意思決定支援～オランダのセルフヘルプの実践～	キャンパスプラザ京都	2015年7月	40	人間科学研究所
10	連続セミナー「社会/障害」第6回「開発と障害当事者への支援」	朱雀キャンパス	2015年7月	25	人間科学研究所
11	公開セミナー「ロールズの方法論と生命倫理」	衣笠キャンパス	2015年9月	30	
12	「精神分析と倫理」研究会④—学校・自閉・精神分析—	衣笠キャンパス	2015年9月	35	人間科学研究所

13	立命館大学国際平和ミュージアム第95回 ミニ企画展示「放射能が降ってくるービキ ニ事件と科学者西脇安」	衣笠キャンパス	2015年9月	80	立命館大学国際平和ミュージアム 人間科学研究所
14	山崎正勝講演会「核時代を生きた科学者 西脇安 ビキニ事件からラッセル・アイン シュタイン宣言まで」	衣笠キャンパス	2015年9月	30	人間科学研究所
15	ワークショップ「マイノリティをめぐる思 想/政治:オーストラリアにおける白豪主 義・ネオリベラリズム・アジアとの関係か ら」	大阪いばらきキャン パス	2015年10月	30	人間科学研究所
16	映画「ユニバーシティライフ」上映+今村 彩子監督講演会 聞こえない/聞こえにく い人にとっての大学と情報保障	衣笠キャンパス	2015年10月	50	人間科学研究所
17	連続セミナー「社会/障害」第7回 「精神障害のある人への法制と成年後見 制度の課題」	朱雀キャンパス	2015年10月	25	人間科学研究所
18	終わらないハンセン病問題を考える〜映 画『もういいかいハンセン病と三つの法 律』	衣笠キャンパス	2015年10月	30	
19	ボリス・シリルニク講演会、シンポジウ ム「自分を救え、命があなたを呼んでいる」	衣笠キャンパス	2015年11月	80	立命館大学国際平和ミュージアム
20	映画『M』上映会	衣笠キャンパス	2015年11月	30	
21	人間(性)の境界(限界・条件・拡張性) —Locked-in syndrome (重度身体障害の ために意思疎通が困難な人々)の自己意識 に関する調査から	衣笠キャンパス	2015年11月	15	
22	出生前診断における選択と合意 —オーストラリアと日本の場合—	衣笠キャンパス	2015年11月	30	人間科学研究所、大学院先端総合学術研究科
23	障害学国際セミナー2015	中国、北京市	2015年11月	60	人間科学研究所
24	アフリカセミナー13「銃を銃に 平和構 築プロジェクトが果たした役割とESD」	衣笠キャンパス	2015年12月	30	
25	現代社会エスノグラフィ研究会 第5回公 開研究会	衣笠キャンパス	2015年12月	25	
26	出生をめぐる倫理研究会 4単著合同合評 会	キャンパスプラザ 京都	2015年12月	25	
27	祝祭の多角的再考から導く共生研究」公開 シンポジウム「マージナルな時空間におけ る主体性を問う—多文化共生の再考」	衣笠キャンパス	2015年12月	30	
28	ダンスセミナー1	衣笠キャンパス	2016年1月	20	
29	シンポジウム「母子世帯の子育ての困難の 解決に向けて—組織間連携と理論枠組み の再検討	大阪いばらきキャン パス	2016年1月	30	
30	ダンスセミナー2	衣笠キャンパス	2016年2月	15	
31	現代社会エスノグラフィ研究会 第6回公 開研究会	衣笠キャンパス	2016年2月	25	
32	リサーチクエストの構築過程を知る	バーコンラボ	2016年2月	35	
33	多文化共生を振り返る—排外主義を乗 り越えた未来を構想するために	京都市地域・多文 化交流ネットワー クサロン	2016年2月	30	人間科学研究所
34	現代社会エスノグラフィ研究会 第7回公 開研究会	衣笠キャンパス	2016年2月	25	
35	ダンスセミナー3	衣笠キャンパス	2016年2月	20	
36	フェミニズム研究会第5回公開研究会 (抵抗)を描く —『レズビアン・アイデ ンティティーズ』合評会	衣笠キャンパス	2016年3月	30	人間科学研究所
37	出生をめぐる倫理研究会「出産をめぐる 習俗と近代化 —産屋の存続と閉鎖—」	Kyoto de Meeting	2016年3月	30	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	千葉雅也	〔詩〕 僕は、僕の口語を置き換えたりしない（千葉 雅也, ミヤギ フトシ）	文藝界, 69 巻 4 号	2015 年 4 月
2	千葉雅也	〔被取材〕 “シック”とは何か。	&Premium, 第 2 巻 12 号, pp. 108-109	2015 年 10 月
3	千葉雅也	〔対談・レクチャー〕 ゲンロン批評再生塾 第 14 回 イディオムを探せ（佐々木 敦, 千葉 雅也）	ゲンロンカフェ	2015 年 12 月 24 日
4	千葉雅也	〔対談〕 思弁的实在論の展開について——メイヤサー『有限性の後で』刊行直前対談（東 浩紀, 千葉 雅也）	ゲンロンカフェ	2016 年 1 月 15 日
5	千葉雅也	〔討議〕 MINORITY ART POLITICS ACADEMY 第 2 回 セクシュアリティと暴力——セクシャルマイノリティの表現史（千葉 雅也, 土屋 誠一, 柴田英里）	新宿眼科画廊	2016 年 2 月 20 日
6	松原洋子	図書館のアクセシビリティ向上	味覚糖 UHA 館、図書館流通センター、図書館のためのブックフェア 2015 セミナー	2015 年 10 月 30 日
7	松原洋子	Support for Students with Print Disabilities at Ritsumeikan University	Mansfield Library at Montana University	2016 年 2 月 9 日
8	望月茂徳	インタラクティブ・デバイスおよび遊具の制作、展示協力 こども広場「もっとからだでおはなししよう」2015/7/26 高槻現代劇場 ダンス講師：砂連尾理、音響：大畑 省吾、インタラクティブデバイス・遊具制作：望月茂徳、石川紗季、宮尾美代子、野田裕太、内藤綜一	高槻現代劇場	2015 年 7 月 26 日
9	望月茂徳	SLOW MOVEMENT -The Eternal Symphony 1st mov. - 演出 栗栖良依 (SLOW LABEL) 詩 三角みづ紀 パフォーミングディレクター 金 10 井ケイスケ テクニカルディレクター 遠藤豊 (ルフトツーク) 進行 河内崇 (ルフトツーク) 美術 / FACTORY 井上唯 衣装 武田久美子、岡嶋聡美、丸本久美子、さをり 工房ゆう、ヘッドプロップス 藤原一毅 音楽 坂東美佳 音響 中原楽 (ルフトツーク) インタラクティブメディア 望月茂徳 (立命館大学) タイトルバック描画 西岡弘治 (アトリエコーナス) 制作統括 小穴一太 (株式会社 KOANA) 東京公演制作 倉持陽介 (スパイラル/株式会社ワコールアートセンター) 横浜公演制作 橋爪亜衣子 (象の鼻テラス) 制作 奥村優子、宮武亜季、塚原沙和、平石直輝 アクセスコーディネーター 廣岡香織、前場紀子、船越孝典 (アトリエコーナス) 広報 林悦子 (株式会社 KOANA) 宣伝美術 SAFARLine ドキュメンテーションディレクター 橋本誠 (ノマドプロダクション) 記録映像 池田美都 映像技術協力 藤本ツトム パフォーマー 麻生まさのり、伊藤洋子、小川香織、齊藤コン、齊藤望、定行夏海、清水瑚都 豊川弘恵、永野百合子、中村大輝、廣岡美羽、本田綾乃、松永紬、	国連大学前広場、スパイラル/株式会社ワコールアートセンター、豊洲公園、象の鼻テラス	2015 年 10 月 3 日 ～2016 年 2 月 7 日

		森田かずよ		
10	望月茂徳	おっ!?心をつかむインタラクティブ	タケナカ内覧会 2015in 大阪, 大阪市港区	2015年8月27日
11	望月茂徳	SLOW MOVEMENT -The Eternal Symphony 1st mov.	国連大学前広場, スパイラル/株式会社ワコールアートセンター, 豊洲公園	2015年10月3日 ~2015年10月25日
12	望月茂徳	車椅子DJ	超福祉展 2015, 渋谷ヒカリエ 8/	2015年11月10日 ~2015年11月16日
13	高誠晩	「歴史摩擦」「歴史和解」「歴史認識」を考えるー20世紀アジア太平洋における島嶼地域の経験から	沖縄タイムス社	2015年6月24日
14	齋藤 絢子	学習支援についての意見交換会の小考察ー複線径路・等至性モデルを用いた学生の心理的変容の考察ー	京都府警察少年サポートセンター	2015年4月
15	浜田明範	ガーナのネズミ	京都新聞「考える舌」	2015年9月
16	浜田明範	再分配論の再始動:理論、制度、行為	『民博通信』150号 pp.20-21	2015年9月
17	浜田明範	書評 新山智基著『顧みられない熱帯病と国際協力:ブルーリ潰瘍支援における小規模 NGO のアプローチ』	『アフリカ研究』88巻 pp.53-55	2015年12月
18	浜田明範	大村さんのノーベル賞の意味	京都新聞「ソフィア・京都新聞文化会議」	2015年12月
19	浜田明範	人間学のキーワード グローバルヘルス	『月刊 みんぱく』2016年3月号 p.20	2016年3月
20	安原荘一	書評【プシコ ナウティカ】	「精神医療」2015 no.79	2015年9月
21	安田裕子	質的研究法、複線径路・等至性モデル(TEM)に関する分析検討会や講習会などを実施		2007年6月 ~2015年
22	安田裕子	日本学術振興会特別研究員申請 申請内容ファイル作成のポイント(講習会)	京都市・立命館大学、2016年度 日本学術振興会特別研究員申請ガイドンス	2015年4月1日
23	安田裕子	日本学術振興会特別研究員申請 申請内容ファイル作成のポイント(講習会)	草津市・立命館大学、2016年度 日本学術振興会特別研究員申請ガイドンス	2015年4月3日
24	安田裕子	大学教員応募セミナーー採用側からの視点(講習会)	京都市・立命館大学、若手研究者キャリアパス支援プログラム	2015年6月9日
25	安田裕子	科研費を獲得しようー申請書作成のヒント(講習会)	京都市・立命館大学、日本学術振興会表彰者が語る!科研費獲得の心得	2015年7月29日 ~2015年7月29日
26	安田裕子	TEM 図の描き方のひとつの例ーワードマップ実践編より(講演)	東京都文京区・東京大学、TEA・東京研究会	2015年8月6日 ~2015年8月6日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	齋藤 絢子	京都府警察本部生活安全部長	表彰状	少年の非行防止と健全育成	2016年2月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	渡辺克典	病・障害当事者による災害支援活動をめぐる組織間ネットワーク研究	挑戦的萌芽研究	2013年4月	2016年3月	代表
2	小川さやか	中古品と非正規品の越境取引にみる現代アフリカの消費文化に関する研究	若手研究(B)	2012年4月	2016年3月	代表
3	井上彰	カタストロフィの分配的正義論	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
4	大谷いづみ	生命倫理学・死生学における安楽死・尊厳死論の変容とキリスト教の歴史的社会的影響	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
5	サトウタツヤ	三次元地層モデリングを用いた供述過程の可視化システムの構築	新学術領域研究	2011年7月	2016年3月	代表

6	サトウタツヤ	グローバリゼーション時代における新しい心理学史の叙述	挑戦的萌芽研究	2015年4月	2018年3月	代表
7	千葉雅也	2000年代フランスにおける「ポスト構造主義以後」の存在論とその国際的受容の研究	若手研究(B)	2013年4月	2016年3月	代表
8	長瀬 修	社会的障害の経済理論・実証研究	基盤研究(S)	2012年5月	2017年3月	分担
9	長瀬 修	障害者の権利条約の実施過程の研究	基盤研究(C)	2013年4月	2018年3月	代表
10	中村正	親密な関係における暴力加害者の特徴と暴力から離脱する過程の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
11	西成彦	比較植民地文学研究の新展開-「語圏」概念の有効性の検証	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
12	松原洋子	高等教育機関における障害者の読書アクセシビリティの向上:ICTによる図書館の活用	基盤研究(B)	2013年4月	2016年3月	代表
13	美馬達哉	直流刺激と歩行運動のハイブリッド型リハによる下肢機能再建とその脳内機構の解明	基盤研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表
14	美馬達哉	発振操作による動的ネットワークの再組織化	新学術領域研究	2015年6月	2020年3月	代表
15	美馬達哉	「老成学」の基盤構築—く媒介的共助>による持続可能社会をめざして	基盤研究(B)	2015年7月	2019年3月	分担
16	望月茂徳	ケアとインタラクティブメディア—遊びから考える「あいだ」の創造—	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
17	やまだようこ	三項関係ナラティブによる心理支援モデル—医療と教育の媒介ツールの開発	挑戦的萌芽研究	2013年4月	2016年3月	代表
18	高誠晩	東アジアの紛争後社会における「正義回復」とローカルリアリティに関する人類学的研究	研究活動スタート支援	2015年8月	2017年3月	代表
19	吉田一史美	米国における出産女性と出生児の離別に関する歴史研究	研究活動スタート支援	2014年8月	2016年3月	代表
20	吉田一史美	望まない妊娠への法的支援に関する日本・ヨーロッパ・アメリカの比較的研究	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	分担
21	由井秀樹	戦後日本の男性性と男性不妊に関する歴史研究	若手研究(B)	2015年4月	2017年3月	代表
22	篠木涼	ポストヒューマンと心の制御をめぐる歴史—科学的心理学の大衆化と応用の表象文化論	若手研究(B)	2015年4月	2018年3月	代表
23	藤原信行	人びとによる自殺の責任帰属過程にかんする社会学的記述のための基礎的研究	若手研究(B)	2014年4月	2017年3月	代表
24	櫻井悟史	死刑の歴史社会学—刑罰史研究の新たな視座	若手研究(B)	2015年4月	2018年3月	代表
25	神崎真実	不登校経験者・中途退学者等の受け入れ高校における生徒支援の体系的理解	特別研究員奨励費	2015年4月	2017年3月	代表
26	中西京子	座位MR I画像を用いた女性の骨盤臓器の位置と骨盤底筋力の関連性	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	分担
27	堀江有里	社会・文化運動研究における「アイデンティティの政治」の再文脈化	基盤研究 (C)	2013年4月	2017年3月	代表
28	堀江有里	日本におけるクィア・スタディーズの構築	基盤研究 (B)	2013年4月	2017年3月	代表
29	小門徳	生殖補助医療規制の構築における「子どもを持ちたいという欲望」の評価	若手研究(B)	2014年4月	2016年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	村上潔	母子世帯の育児困難をめぐる重層的要因の検証-大阪府における事例調査をもとに	一般社団法人全国勤労者福祉・共済振興協会 公募委託調査研究	2015年1月	2015年12月	代表
2	村上潔	フェミニスト・アーカイブ活動の展開とその意義—ロンドン〈The Feminist Library〉の調査から	研究推進プログラム(若手研究)	2015年7月	2016年3月	代表

3	小川さやか	メキシコにおけるポスト・フクシマ表象の映像記録分析の現在の意義	研究の国際化推進プログラム	2015年4月	2016年3月	代表
4	立岩真也	日本・韓国・中国における障害当事者中心の社会サービス構築にむけて	研究の国際化推進プログラム	2015年10月	2016年3月	代表
5	立岩真也	自殺にかんする責任帰属過程を解明しうる質的な社会学の方法論確立と、その応用・実践	専門研究員プログラム (旧ポストドクトラルフェロープログラム)	2015年4月	2016年3月	代表
6	立岩真也	「生存学」創成拠点	研究拠点形成支援プログラム	2015年4月	2016年3月	代表
7	大谷いづみ	安楽死・尊厳死論と死生観教育の関連性に関する比較研究	学外研究制度	2015年9月	2016年9月	代表
8	小泉義之	現代精神保健福祉体制におけるジャック・ラカンの精神分析の倫理的射程	専門研究員プログラム (旧ポストドクトラルフェロープログラム)	2015年4月	2016年3月	代表
9	サトウタツヤ	(新学術領域としての) 学融志向「ナラティブの科学」が切り開く未来	研究推進プログラム 科研費連動型	2015年6月	2016年3月	代表
10	西成彦	天災・人災すべてを含む災害 (カストロフィ) を克服するためのレジリエンスに関する人文的研究	研究の国際化推進プログラム	2015年4月	2016年3月	代表
11	DUMOUCHEL Paul G	"Sensory anthropology, affective coordination and artificial empathy"	研究推進プログラム 科研費連動型	2015年6月	2016年3月	代表
12	松原洋子	米国における出産女性と出生児の離別に関する現代史研究	専門研究員プログラム (旧ポストドクトラルフェロープログラム)	2015年4月	2016年3月	代表
13	松原洋子 立岩真也 小泉義之 大谷いづみ	インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	2013年4月	2016年3月	分担
14	やまだようこ	「三項関係ナラティブ支援モデル」による医療と患者をむすぶ媒介者を養成する教育実践プログラムの開発	三菱財団社会福祉事業・研究助成	2013年10月	2015年9月	代表
15	やまだようこ	人生ナラティブ心理学と医療学の専門家養成ワークショップ開発とアクションリサーチ	研究推進プログラム 科研費連動型	2015年6月	2016年3月	代表
16	高誠暁	20世紀東アジアの紛争後社会における「移行期正義」とディアスポリックな吊いの実践に関する研究	研究推進プログラム (若手研究)	2015年7月	2016年3月	代表
17	櫻井悟史	日本刑罰思想史における死刑存置を支える思考様式—刑罰についての反時代的考察	専門研究員プログラム (旧ポストドクトラルフェロープログラム)	2013年4月	2016年3月	代表
18	吉田一史美	米国における出産女性と出生児の離別に関する現代史研究	研究推進プログラム (若手研究)	2015年7月	2016年3月	代表
19	由井秀樹	体外受精研究のフレームに関する歴史研究—1960～80年代の日本の展開	上廣倫理財団研究助成	2015年2月	2016年1月	代表
20	由井秀樹	戦後日本の男性不妊と男性性に関する歴史研究	専門研究員プログラム (旧ポストドクトラルフェロープログラム)	2014年4月	2017年3月	代表
21	孫 美幸	アジアの文化的重層性をもとにした多文化共生教育の再構築	専門研究員プログラム (旧ポストドクトラルフェロープログラム)	2015年4月	2016年3月	代表
22	安孝淑	福祉制度と ALS の人の家族介護に関する質的研究—韓国介護支援制度を中心に—	研究の国際化推進プログラム	2015年10月	2016年3月	代表
23	木戸彩恵	化粧品由来の後天的な容貌の問題 (ディスフィギュアメント) と法心理的アプローチによる支援の検討	公益財団法人上廣倫理財団平成26年度研究助成	2015年2月	2016年1月	代表
24	木戸彩恵	化粧品由来の容貌の問題 (ディスフィギュアメント) に対応するための法心理面接ガイドライン作成の試み	研究推進プログラム 若手研究	2015年7月	2016年3月	代表
25	永田貴聖	環太平洋地域におけるトランスナショナル社会空間の重層的形成	研究拠点形成支援プログラム	2015年4月	2016年3月	分担

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
該当無し								